

スズムシの丘 復元計画

高度経済成長以前の田舎では、野原と畑が混在したような台地に鈴虫が生息していて、夕方から深夜にかけて、星空のもと、大合唱を聞くことができました。コーロギや松虫もいたことでしょう。ここでの提案は、その音楽の光景を復元するものです。イメージとしては、

1. 台地の一角、見晴らしの良い高台に、古墳のような丘を築造します。土手が必要なので段々畑ふうにします。
2. 今や野生の鈴虫は農薬で減びました。そこで、人に養われた鈴虫を放牧(?)して、次第に自然に帰していくことにします。うまくいくかは分かりませんので、生物の先生のお知恵を拝借します。土手には、蛇が出入りするほどの横穴をたくさんほがしておきます。そこが彼らの住処なのです。土手はカヤなどの雑草を生え放題にします。
3. 丘の上には、くすのきを一本、下にはベンチ。夕日が見える丘にたたずみ、涼しさが忍び寄るころになると、夜露を求めて穴からい出した鈴虫が鳴き始めます。天空には一番星二番星、やがて無数の星たちによる銀盤が輝き始めます。

“虫一家 大地ことごと鳴きつくし 満天の星 ただ聞き惚れる”

(鈴虫の捕り方など、「ハヤトー自然道入門」(天原一精)明窓出版319ページを参照のこと)